

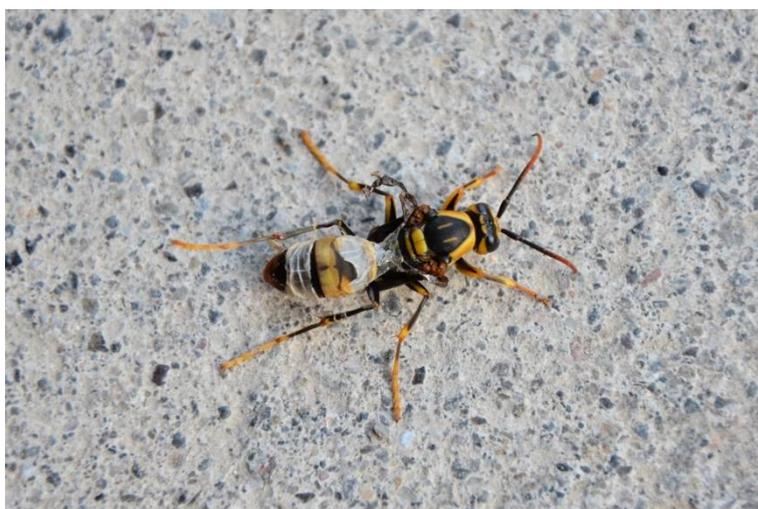
## ハチと原さん

我が家の玄関頭上にはセグロアシナガバチの巣がある。初夏の日に1匹が巣を作り始めているのを発見したが、彼女も生きもの、取り去るのは可愛そうと放っておいたものだが、いつの間にか増えてしまった。その真下を孫が自転車(補助輪の無い大きいやつ)で毎日走り回っているが、ハチも気にしていないようだからそのままだ。



先日、巣の下に脱皮を失敗したハチが可愛そうに飛ぶことができずに落下していた。ハチにも脱皮の失敗があるのかと、そして「もしかして珍しいこと?」と思って早速ハチの専門家＝原茂光さん＝にメールを送った。

原さん曰く、「腹部などの蛹殻は通常では脚で搔き落としてしまいます。巣は末期で、♂を主体に、来年の女王候補の♀が加わった集団です。間もなく巣を離れて、近くの葉裏などに集団で移動します。なお、セグロアシナガバチは平地(都市)に多い種類で、筏場付近ではキアシナガバチが優先しているので、やや珍しい例です。」とのこと。



原さんとは、よく観察会や勉強会で一緒になるが仮に刺されたとしても彼はぶれることが無い。「ハチは自然を守ってくれる生きものです。彼らがいないと自然界は害虫だらけになって草も木も虫に食われてしまいます」と。そして寝食をともにしている。

今年は、ハチの狩が盛んだったわけでもないだろうがなぜか虫が少ないような気がする。